

2019年度  
事業報告書

2019年4月 1日から  
2020年3月31日まで

公益財団法人 国際文化会館

項目	頁
I. 組織体制	1
II. 募金活動	3
III. 総務関係事項	4
IV. 施設管理	4
V. 会員関係	5
VI. プログラム活動	9
VII. 国際文化会館の運営	30

## I. 組織体制

### A. 評議員会・理事会

2019年度中に開催された評議員会・理事会は、以下の通りである。

定時評議員会	2019年6月14日開催
第1回理事会	2019年5月28日開催
第2回理事会	2019年6月14日開催
第3回理事会	2019年9月26日開催
第4回理事会	2019年12月19日開催
第5回理事会	2020年3月9日開催
第6回理事会	2020年4月3日開催（書面表決）

### B. 評議員・理事・監事等

2019年度中の評議員・理事・監事等の異動は、以下の通りである。

#### 【評議員】

<6月14日付>

（新任） 遠谷信幸

#### 【理事】

<6月14日付>

（重任） 丸山 勇

（新任） 堂前宣夫                      御立尚資                      緒方克明                      谷家 衛

（退任） 番場孝司                      岩下 幹

#### 【代表理事】

<6月14日付>

（退任） 番場孝司（常務理事）

#### 【監事】

<10月4日付>

（退任） 豊松秀巳

**【顧問】**

<6月14日付>

(新任) 番場孝司

**【名誉顧問】**

<2020年1月1日付>

(再任) 明石 康

2019年度末現在の評議員・理事・監事等の人数は、評議員20名、理事15名、監事1名、顧問2名である。

**C. 委員会**

2019年度中に開催された委員会は、以下の通りである。

**【役員等候補者選出委員会】**

第1回 2019年4月12日開催

第2回 2019年5月7日開催

第3回 2020年3月24日開催

**【再開発検討委員会】**

第3回 2019年4月17日開催

第4回 2019年10月7日開催

**D. 職員**

2019年度中1名が退職し、新たに1名を採用した。年度末現在の職員の人数は、有期職員を含め24名（男性6名、女性18名）である。

## II. 募金活動

### A. 助成金・寄付金

2019年度中に領収した各種助成金・寄付金の主たるものは、以下の通りである。(千円未満四捨五入)

日米国際金融シンポジウム	12,300	千円
ハーバードロースクール	11,923	
日米友好基金	7,233	
(一財)MRAハウス	7,000	
(独)国際交流基金	4,470	
(一社)アジア・ソサエティ	3,257	
米日財団	3,200	
シャハニアソシエイツ(株)	3,000	
(公財)渋沢栄一記念財団	2,200	
(公財)トヨタ財団	1,000	
八幡浜市	597	
(株)森ビル	500	
清水建設(株)	300	
(一社)霞会館	300	
入会時寄付金	28,385	
諸寄附	14,499	
遺贈	100,028	

### III. 総務関係事項

#### A. 六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合

地区住民・地権者の協議機関である「六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合」(2008年設立)に会館も参加し、この地区のより良い街づくりについて話し合っている。

2014年7月に基本計画改良案が策定され、これに基づき事業が進められていたが、震災復興やオリンピック特需などによる建設コスト増加等の影響や、23区の大学等の学生の収容定員抑制に関する法律制定を受け、施設計画の変更が検討され、2019年11月に新たな新基本計画案が策定され、都市計画素案の策定に向けて事業が進められている。

### IV. 施設管理

駐車場において、無断駐車の実態の排除、会員優待の明確化、駐車可能台数の増加を目的に、駐車スペースのレイアウト変更、フラップ盤の設置等を実施して、新たな駐車場管理システムを導入した。

また、無線LANの利用者が増えたことによりネットワークに繋がりにくい状況が頻発したため、ネットワーク設計を見直してインターネット回線を増設したり、無線LAN機器の交換・増設を行い、インターネット環境を強化した。

## V. 会員関係

### A. 個人会員

2019年度は、新規入会が218名（日本人164名、日本人以外54名）あり、昨年度比11名増加（日本人8名、日本人以外3名）した。退会届提出、死亡、会費滞納による退会者は138名（日本人98名、日本人以外40名）で、昨年度比11名減少（日本人4名増、日本人以外15名減）した。これにより全体として80名の会員数の増加（日本人64名、日本人以外16名）となり、2020年3月31日現在、日本人会員2,240名と日本人以外44カ国（地域）の会員857名の合計は3,097名となった。

	日本人	日本人以外	小計	合計
新入会員	164 (75%)	54(25%)		218 (100%)
退会	54	19	73 (53%)	
死亡	35	12	47 (34%)	
会費滞納	9	9	18 (13%)	
小計	98 (71%)	40 (29%)		138 (100%)
国籍変更	-1	+1		
増減	+64	+16		+80

### B. 法人会員

2019年度の新規入会及び増口は16法人16口で、昨年度比9法人8口増となった。一方4法人6口の退会及び減口があった。これにより法人会員数は昨年度比12法人10口増加し、2020年3月31日現在、合計179法人204口となった。

	法人数	口数	昨年度比	
4口 法人	2	8	0	(0口)
3口 "	4	12	0	(0口)
2口 "	11	22	-2	(-4口)
1口 "	162	162	+14	(+14口)
計	179	204	+12	(+10口)

### C. 図書会員

新規入会者は17名、退会者は24名で、2020年3月31日現在、図書会員は12カ国124名となった。

#### D. 総収入

2019年度の図書会費を含む会費収入は、¥74,090,920で、昨年度比¥6,034,832増加し、また入会時寄付金収入は¥28,385,000で、昨年度比¥7,410,000増加した。法人会費収入は¥34,880,000で、昨年度比¥1,947,675増加した。

	2019年実績	予算	2018年実績
個人会員費	¥74,090,920	¥71,500,000	¥68,056,088
入会時寄付金	28,385,000	38,500,000	20,975,000
法人会員費	34,880,000	35,000,000	32,932,325
合計	<u>¥137,355,920</u>	<u>¥145,000,000</u>	<u>¥121,963,413</u>



## 個人会員国籍別統計

(2020年3月31日現在)

国籍／地域	計					計 2020年 3月31日
	2019年 3月31日	新入会員 (+)	退会 (-)	死亡 (-)	会費滞納 (-)	
オーストラリア	32	3	0	0	0	35
オーストリア	4	0	1	0	0	3
バングラデシュ	1	0	0	0	0	1
ベルギー	4	0	0	0	0	4
ブラジル	1	0	0	0	0	1
カナダ	36	2	2	0	2	34
中華人民共和国	4	3	0	0	0	7
チェコ	1	0	0	0	0	1
デンマーク	1	0	0	0	0	1
エクアドル	1	0	0	0	0	1
エリトリア	1	0	0	0	0	1
フィンランド	3	0	0	0	0	3
フランス	12	1	0	0	0	13
ドイツ	26	2	1	0	0	27
香港	3	1	0	0	0	4
ハンガリー	1	1	0	0	0	2
インド	7	3	1	0	0	9
インドネシア	3	1	0	0	0	4
アイルランド	4	0	0	0	0	4
イスラエル	1	0	0	0	0	1
イタリア	6	0	0	0	0	6
日本	2,176	164	54	36	9	2,240 *
ケニア	1	0	0	0	0	1
韓国	23	3	1	0	1	24
マレーシア	3	0	0	0	0	3
ネパール	1	0	0	0	0	1
オランダ	7	1	0	0	0	8
ニュージーランド	2	0	0	0	0	2
ノルウェイ	0	1	0	0	0	1
フィリピン	3	0	0	0	0	3
ポルトガル	1	0	0	0	1	0
ロシア	1	0	0	0	0	1
サウジアラビア	0	1	0	0	0	1
シンガポール	6	0	0	0	0	6
スペイン	1	0	1	0	0	0
スリランカ	1	2	0	0	0	3
スウェーデン	8	0	0	0	1	7
スイス	5	0	0	0	0	5
シリア	0	1	0	0	0	1
台湾	3	3	0	0	0	6
タイ	10	0	0	0	0	10
トルコ	3	0	0	0	0	3
イギリス	51	3	0	0	0	54
アメリカ	558	22	12	11	4	554 *
ベトナム	1	0	0	0	0	1
日本人	2,176	164	54	36	9	2,240
日本人以外	841	54	19	11	9	857
合計	3,017	218	73	47	18	3,097

\*国籍変更:日本→USA(1名)

法人会員分布  
(2020年3月31日現在)

県／国	4口	3口	2口	1口	法人数	口数
千葉			1	1	2	3
東京	2	3	9	137	151	172
神奈川				1	1	1
富山				1	1	1
石川				1	1	1
愛知				1	1	1
滋賀				1	1	1
大阪		1	1	2	4	7
岡山				1	1	1
福岡				1	1	1
沖縄				1	1	1
茨城				1	1	1
ドイツ				2	2	2
オランダ				1	1	1
イギリス				1	1	1
アメリカ				9	9	9
合計						
法人数	2	4	11	162	179	
口数	8	12	22	162		204

## VI. プログラム活動

### I. 若手リーダーのネットワーク構築とエンパワーメント

#### 1. アジア・パシフィック・ヤング・リーダーズ・プログラム (APYLP)

アジア・パシフィック・ヤング・リーダーズ・プログラム (APYLP) は、来る数十年にわたりアジア太平洋地域の平和と繁栄を担っていく次世代のためのコミュニティで、地域内のさまざまなリーダーシップ・プログラムのフェローたちを繋ぎ、継続的な研鑽の機会を提供することで、新たな取り組みを生み出し、こうした次世代コミュニティの活動の拠点となる「場」を提供する。活動の柱として、APYLP 参画団体が中心となって年数回のジョイント・セッションを、日本をはじめアジア太平洋地域各地で開催する。

2019 年度は、以下の 4 回のセッションを実施し、各種プログラムの垣根を越えてアジア太平洋地域の次世代リーダー間の対話の場を創出し、知的・文化交流を行った。

開催日	テーマ	登壇者	共催団体
9 月 4 日	アジアの宗教—平和構築に宗教が果たす役割	スピーカー： フォージア・サイード／社会活動家、UNDP パキスタン事務所ジェンダーアドバイザー  ジハーン・ペレーラ／ナショナル・ピース・ カウンシル常務理事 ソムブーン・ジュンプレムプリート／仏教 者国際連帯会議事務総長 司会： 小川 忠／跡見学園女子大学教授   サイード      ペレーラ      ジュンプレムプリート      小川	国際交流基金 アジアセンター
10 月 29 日	LGBT インクルーシブな未来を目指して—変	基調講演：ルオン・テ・フイ／iSEE Institute ディレクター パネリスト： 大井川和彦／茨城県知事	アジア・ソサエティ・ジ

	<p>わるアジア と日本</p>	<p>土井香苗／ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本 代表 杉山文野／株式会社ニューキャンバス代表取 締役 ジョイス・テン／台湾婚姻平等連盟 副コーデ イネーター兼ロビイング・マネージャー モデレーター：菅 大介／株式会社チェリオコ ーポレーション専務取締役 特別ゲスト： キャロライン・ケネディ／アジア・ソサエティ 理事、元駐日アメリカ大使 総合司会： 別府理佳子／スクワイヤ外国法共同事業法律 事務所パートナー</p>	<p>ヤパン センタ ー</p>
			<p>(左から)フイ、 大井川、土井</p>
			<p>(左から)杉山、 テン、菅</p>
			<p>(左から)ケネデ ィー、別府</p>

<p>11月16日</p>	<p>テクノロジーが創るアジアの未来</p>	<p>パネリスト：          安西 潔／富士通アクセラレータプログラム          ファウンダー          佐藤孝徳／株式会社 Shippio 代表取締役 Co-          Founder&amp;CEO          高岡美緒／株式会社メディカルノート取締役          CFO、USJLP フェロー          日高久美子／WeWork Japan 合同会社 副社          長広報・渉外統括          松本恭攝／ラクスル株式会社代表取締役社長          CEO          モデレーター：          今岡 柁／freee 株式会社、新渡戸 11 期生          デヴィッド・コービン／Twitter Japan 株式会          社、新渡戸 7 期生</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>(左から) 安西、 佐藤、高岡</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(左から) 日高、松本</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(左から) 今岡、コービン</p>	
<p>12月6日</p>	<p>インド発～テクノロジーと新しい価値の創造「人の移動と空間」</p>	<p>スピーカー：          リテシュ・アガルワル／OYO Hotels &amp;          Homes 創業者兼 CEO          司会：          伊藤 錬／メルカリ執行役員[グローバル戦略]</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<p>シャハニ・アソシエイツ株式会社</p>

## 2. アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム (ALFP)

アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム (ALFP) は、国際交流基金との共催により、1996年度に開始した。以来20余年にわたり実施されてきた招聘事業では、さまざまな分野において際立ったリーダーシップを発揮している専門家を、日本を含むアジア諸国から毎年7～9名フェローとして招聘し、2カ月間の知的共同作業を通じて相互理解と共通の問題意識を醸成するとともに、アジア域内での分野を超えた人的ネットワークの構築を目指してきた。国際交流基金アジアセンターとの共催が2020年度をもって終了することを受け、フェローの招聘は2018年度で終了した。事業開始以来招聘したフェローの数は139名にのぼる。

2018、19年度はフォローアップ事業を実施し、事業の成果を広く社会に周知・還元することを目的に、元フェローを登壇者とした講演会の開催や、元フェローを寄稿者としたeマガジンの発行を行った。2019年度は以下の2回の講演会を実施した。また、「ジェンダー」「人の移動と多文化共生」をテーマに、eマガジンを計2回発行した。

日時	テーマ	講師など
9月4日※	アジアの宗教—平和構築に宗教が果たす役割	フォーリア・サイド／社会活動家、UNDPパキスタン事務所ジェンダーアドバイザー、2010年度ALFPフェロー ジハーン・ペレーラ／ナショナル・ピース・カウンシル常務理事、2011年度ALFPフェロー ソムブーン・ジュンプレームプリート／仏教者国際連帯会議事務総長 司会：小川 忠／跡見学園女子大学教授
2020年 1月25日	アジアにおけるドキュメンタリー～可能性と挑戦～	タンヴィール・モカメル／映画監督、作家、2009年度ALFPフェロー コン・リッディ／映像作家、映画評論家、バンコクポスト紙編集者、2010年度ALFPフェロー 清 恵子／作家、キュレーター、メディア・アクティビスト 司会：マリオ・ロペズ／京都大学准教授  モカメル      リッディ      清      ロペズ

※アジア・パシフィック・ヤング・リーダーズ・プログラム (APYLP) のジョイント・セッションを兼ねて実施。

### 3. 新渡戸リーダーシップ・プログラム

新渡戸リーダーシップ・プログラムは、新渡戸国際塾の継承事業として2018年度の準備期間を経て、より多様化・複雑化する課題に対し、既存の枠にとらわれない視点や方法で取り組む若手リーダーを発掘する事業として2019年度より開講した。近藤正晃ジェームス（国際文化会館理事長）が代表を務め、これまでに新渡戸国際塾を修了したフェローの中から選ばれた運営委員による企画のもと、「自ら未来をデザインし、実現する～変容するボーダーをどう越えるか」をテーマに、6月から12月まで全13回の講義を行った。

2019年度は書類選考（願書・小論文）と面接を経て、官公庁、企業（商社、メーカー、スタートアップなど）のほかにも大学生、建築関係者、団体職員などを含む9名の参加者（平均年齢33.3歳）が選抜された（新渡戸国際塾第一期からの累計は152名）。全13回の講義のうち2回は一般公開した。

本プログラムは、公益財団法人渋沢栄一記念財団と、一般財団法人MRAハウスの助成を受けて実施した。

2019年度のカリキュラムは、以下の通りである。

回	日時	テーマ	講師など
第1回	6月22日	開講式 オリエンテーション	石川 勇／運営委員、新渡戸国際塾三期生 茂木崇史／運営委員、同四期生 大橋英雄／運営委員、同六期生 堺 夏七子／運営委員、同六期生 ビクラム・シャハニ／運営委員、同九期生
第2回	7月6日	「自ら未来をデザインし、実現するとは」	近藤正晃ジェームス／国際文化会館理事長
第3回	7月20日 ～21日 (山梨県清里清泉寮)	創造的問題解決論「自ら未来をデザインし、実現する～課題を可視化し、実現までのビジョンを描く」	佐宗邦威／戦略デザインファーム BIOTOPE CEO、チーフストラテジックオフィサー
第4回	8月4日	文化・教育「自ら未来をデザインし、実現する～文理の垣根を超えて創造するアイデアをつくる」	中島さち子／ジャズピアニスト、作曲家、数学者、株式会社 steAm 代表取締役、STEAMS 教育家

第5回	8月24日	ダイバーシティ「自ら未来をデザインし、実現する～誰もがありのままに生きるために」	杉山文野／トランスジェンダー活動家、株式会社ニューキャンパス代表取締役
第6回	9月7日	政治・経済「自ら未来をデザインし、実現する～日本が課題解決先進国になるには」	藻谷浩介／株式会社日本総合研究所主席研究員
第7回	9月21日～23日 (宮城県石巻市雄勝町、牡鹿郡女川町)	「被災地で起きたイノベーションから考える」 「町の現在・未来を描く」 「女川復興ストーリーとまちあるき」 「女川で売上1億円の事業を企画せよ」	油井元太郎／MORIUMIUS フィールドディレクター 徳水博志／雄勝花物語共同代表 高橋正樹／株式会社高政代表取締役 厨 勝義／コーディネーター、株式会社アイローカル代表取締役、南三陸石けん工房代表 茂木崇史／コーディネーター
第8回	10月6日	課題の中間発表	茂木崇史 大橋英雄 錢 瓊毓／運営委員、新渡戸国際塾三期生 藤田勝利／運営委員、同四期生 向山 淳／運営委員、同九期生
第9回	10月19日	「渋沢栄一から学ぶリーダーシップ」	井上 潤／渋沢史料館館長
第10回	10月26日	地方創生「自ら未来をデザインし、実現する～持続可能から持続確実へ」	國定勇人／三条市長 [新潟県]
第11回	11月16日	APYLP ジョイント・セッション「テクノロジーが創るアジアの未来」	安西 潔／富士通株式会社 グローバルマーケティング本部ビジネス開発統括部 佐藤孝徳／株式会社 Shippio 代表取締役 日高久美子／WeWork バイスプレジデント 高岡美緒／メディカルノート取



			締役 CFO 松本恭攝／ラクスル株式会社 代表取締役社長 CEO デヴィッド・コービン／モデレーター、新渡戸国際塾七期生 今岡 柁／モデレーター、新渡戸リーダーシップ・プログラム1期生
第12回	11月30日	起業・科学技術「自ら未来をデザインし、実現する～目指すは宇宙の掃除屋」	岡田光信／アストロスケール創業者兼 CEO
第13回	12月7日	修了式	近藤正晃ジェームス 石川 勇 茂木崇史 大橋英雄



第3回 清里清泉寮での合宿



修了式

2019年度は既存のフェローネットワークを強化していく取り組みも引き続き行われた。その中で、「同窓会」、「高校出張講座」、「新渡戸サロン」はフェローの繋がりや結束を強め、社会に対して積極的に貢献していくことを可能にした。

### [同窓会]

- 新渡戸Day (9月1日)

### [高校出張講座]

新渡戸国際塾修了後に社会のために何か行動を起こしたいという同窓会企画委員の思いから2018年度にはじまったプロジェクトで、地方の高校を訪問し、多様な経験をもったフェローが高校生に向けて自身の経験をシェアすることでキャリア教育の一

端を担うというものである。2019年度は、愛媛県八幡浜市の委託を受けて市内の県立高等学校3校にフェローを派遣した。

- 愛媛県立八幡浜工業高等学校、川之石高等学校（5月17日）
- 愛媛県立八幡浜高等学校（10月4日）

フェローの交通費や宿泊費は、市からの委託金が充当された。なお同市とは、両者の情報や資源を活用しながらグローバル人材の育成を目指す「地方創生に向けたグローバル人材育成に関する連携協定」を4月に締結した。

#### [新渡戸サロン]

フェローの多様な経歴や専門性、ネットワークを活用した勉強会で、各々の知見を深め、新渡戸のネットワークを活用することを目的に開催された。2019年度は以下のテーマで3回開催し、うち1回（2020年1月実施分）はジャパン・ソサエティ・ジュニア・リーダーシップ・プログラムのフェローを招いて行われた。

- 国際文化交流（5月19日）
- どうなる？一生に一度のラグビーワールドカップ！～メジャースポーツイベントの舞台裏から学ぶ「組織論」（と「採用戦略」）～（6月30日）
- 変革の時代をいかに生きるか～人生の3つの岐路（choice points）と選択（2020年1月13日）

#### 4. 日米芸術家交換プログラム（共催：日米友好基金）

米国の芸術家5名（5組）が来日し、3～5カ月間、日本の文化・芸術を研究し、創作活動を行ったり、日本の芸術家と交流を深めたりするプログラムで、日米友好基金（Japan-United States Friendship Commission）が主催し、国際文化会館は来日中のフェローの活動支援を受託している。1978年より実施され、専門スタッフが来日時のオリエンテーションや住居の手配、日本人芸術家や関連団体などへの紹介、情報の提供や通訳など、フェローの活動全般をサポートしている。

2019年度に来日したアーティストは、以下の通りである。

ブライアン・アンダーソン（工業デザイナー）

（6月から5カ月間）

リー・コネル（作家）

（7月から5カ月間）

ロバート・ミリス（サウンド・アーティスト／リサーチャー）

(3月から5カ月間)

アヤ・ロドリゲス=イズミ (ヴィジュアル・アーティスト)






(6月から4カ月間)


ジェン・シュー (作曲家、歌手、マルチプレーヤー、ダンサー、プロデューサー)

(2月から2カ月間\*)

\*ご家族の訃報により一時中断して帰国。2021年に残り3カ月のフェローシップを再開予定。

また、来日中の米国人芸術家の活動や、彼らと日本人芸術家がコラボレーションする際の発表の場として、「IHJアーティスト・フォーラム (略称AF)」(助成：日米友好基金)を不定期に開催している。2019年度に開催したアーティスト・フォーラムは、以下の通りである。


開催日	タイトル	出演者・講師など
4月1日	レクチャー&パフォーマンス「トーキング・マシーン」	出演：ロバート・ミリス 
4月17日	アーティスト・トーク 「異文化の時間測定法：英語詩と日本語詩に流れる時間について」	スピーカー：デレク・グロマトスキー (詩人／翻訳家、2018年度フェロー) 
6月7日	ライブコンサート&映像上映 「未来に映す伝統、クリエイティブ・ヴォイス」	出演：ジェン・シュー 
7月25日	アーティスト・トーク&パフォーマンス「儀式の記憶：伝え創ること」	出演：アヤ・ロドリゲス=イズミ 
9月17日	アーティスト・トーク 「モノと実験的精神」	スピーカー：ブライアン・アンダーソン 

11月1日	リーディング&トーク 「亡霊に生かされて」	出演：リー・コネル	
-------	--------------------------	-----------	---

## 5. アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター・レクチャー・シリーズ

本シリーズは、日本研究者の研究成果を一般の方々に広く公開し、また、将来の日本研究者とすでに活躍中の日本研究者とのネットワーキングを図ることを目的に、2014年度よりアメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（以下IUC）、国際文化会館、日本財団の共催事業として実施している。IUCは主に北米の大学生・大学院生を対象に中・上級日本語の集中教育を行う日本語教育・研究機関であり、卒業生の多くが日本に関わる幅広い分野で研究者、政府関係者、実業家などとして活躍している。こうした卒業生を講師に迎えて、日本語による講演会を年1～2回開催している。

2019年度は、以下の講演会を開催した。

開催日	テーマ	講師
5月21日	日本は真に資本主義か？—文化と伝統が不動産市場に与える驚くほどの影響	セス・サルキン（株式会社パシフィカ・キャピタル代表取締役社長） 

## II. 世界を変える叡智との対話

### 1. 牛場記念フェローシップ

現代の複雑化した国際情勢を読み解き、時代の一步先を見据える世界的なオピニオン・リーダーを招聘し、グローバル社会が直面する諸課題について意見交換を行うことにより、日本と諸外国との相互理解の増進を試みるプログラムである。滞日中のフェローは、公開講演会と専門家を中心としたセミナー、ワークショップなどに講師として参加するほか、各フェローの希望に応じて非公式な対談やディスカッションの機会を設定する。なお本フェローシップは、牛場信彦記念財団の残余財産の寄贈を受けて実施している。

2019年度は、今後のプログラムの拡大や発展を鑑み、有識者や関係団体に諮問し、助言をいただいた。次年度、選出方法を見直し、また、協賛先などを探した上で新たにフェローの選出を試みる。




### III. 建築・都市・デザインと社会

#### 1. Architalk ～建築を通して世界を見る～

日本近代建築の三大巨匠によって設計された国際文化会館には、創立当初から現在まで日本の建築界を牽引してきた建築家や建築関係者が会員に多数おり、また海外からの建築関係者の来館も多い。これらのネットワークをいかし、会館の建物の再生が行われてからちょうど10年が経った2016年に、内外で活躍する建築家を招き、建築を通して現代世界について考えるためのプログラムを開始した。本プログラムでは、講演会終了後に懇親会を開催し、参加者が講師と、また、参加者同士が懇談する機会を設けている。

2019年度も前年度に引き続き、小林正美氏（明治大学副学長、国際文化会館理事、写真上）、藤村龍至氏（東京藝術大学准教授、写真下）をコーディネーターに、以下の3回のプログラムを開催した。また、森ビル株式会社、清水建設株式会社からの協賛を得た。



開催日	テーマ	講師
7月22日	環境の建築	西沢立衛（建築家） 
10月9日	いま建築で「表現」とは？	青木 淳（建築家） 
2020年 1月31日	建築デザインの可能性と未来	山梨知彦（建築家） 

#### 2. 「アジール・フロタタン」復活事業

「アジール・フロタタン」とは、ル・コルビュジエが1929年に、救世軍の依頼によりリノベーションした船を、難民のための浮かぶ避難所として設計した作品である。2018年2月のセーヌ川の増水により沈没したため、この「アジール・フロタタン」の浮上と修復工事そして修復工事後の復活に関わる展覧会等の実施を目的とする事業である。「アジール・フロタタン」を復活（浮上と修復）させることは、日仏の文化と建築領域の交流と発信に大きく資するほか、「アジール・フロタタン」は1929年に



ル・コルビュジエに弟子入りをしていた建築家前川國男（会館を設計した建築家の一人）の担当した作品でもあり、日本の近現代建築の貴重な歴史的証となるものである。さらに、「アジール・フロタン」は、難民の避難所として利用され、現代史において社会に果たした役割も大きい。

日本建築設計学会との共催で5月31日に関係者およびメディア向けのシンポジウムおよび記者発表会を行い、また10月30日には、記者発表会に参加した記者を数名ご招待し、事業の詳細と進捗を説明する昼食会を開催した。2019年度内に浮上工事が完了する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大およびフランスの政治状況の影響を受けて延期となった。新型コロナウイルス感染の収束を待ち、復活事業は再開をする予定である。



5月31日 遠藤秀平氏による報告



加藤道夫氏、遠藤秀平氏、五十嵐太郎氏による鼎談

### 3. 建物・庭園ツアー

建築や土地には歴史と記憶、開発と文化が内包されているともいわれる。そこで、国際文化会館を語るうえで欠かせない、日本モダニズム建築の巨匠、前川國男、坂倉準三、吉村順三の共同設計による建物と、わが国屈指の京都の名造園家「植治（うねじ）」こと7代目小川治兵衛の作庭による庭園を訪れた人々に案内するプログラムを新たに立ち上げた。

2019年度は2度ツアーを実施し、会館を訪れる人々（原則、宿泊者向け）に、建物や土地、庭の歴史から、会館の設立に関わった方々の信念を紹介することで、国際社会における会館の意義、ひいては平和な未来について考える契機とした。

開催日	テーマ	講師
11月28日	Walk-n-Talk at I-House 作庭家・重森千青さんと歩く朝の庭園 と交流会（日英）（写真左）	重森千青（作庭家）

2020年 1月27日	Walk-n-Talk at I-House 建物ツアー（日）（写真右）	芦葉宗近（理事長補佐、元支配人）
----------------	---	------------------



#### IV. グローバルな課題への取り組み

##### 1. 日印対話プログラム

日印平和条約の締結から 60 周年を迎えた 2012 年に、日印両国間に民間レベルの「対話の場」を創出するために立ち上げたプログラムである。本プログラムは、社会のさまざまな課題の解決に向けて、現状を打破するための新しい価値やアイデアを提案し、インド国内で影響力のある人物を、政治、経済、文化、学術、科学など幅広い分野から年間 1～2 名、一週間程度日本に招聘する。招聘フェローは、講演会、関連機関への訪問、地方視察などを通して日本の関係者と意見交換やネットワーク構築を行う。本事業は、2016 年度まで国際交流基金と、2017 年度よりシャハニ・アソシエイツ株式会社と共催し、これまでに 6 名のフェローを招聘している。

2019 年度は、アジア初のティールフェローに選ばれ、2013 年に OYO Rooms（現在の OYO Hotels & Homes）を創業したリテシュ・アガルワル氏を招聘した。リテシュ氏は、過密スケジュールを縫って 12 月 6 日の早朝に来日した。国際文化会館で朝食会や講演会を行ったほか、インド大使館協力のもとジェトロでスタートアップ企業の代表らとのワーキングランチや、国交省への表敬訪問を実施し、その日の夜に日本を発った。



開催日	テーマ	講師など
12月6日	インド発～テクノロジーと新しい価値の創造「人の移動と空間」 	リテシュ・アガルワル ( OYO Hotels & Homes 創業者 / CEO) コメンテーター：伊藤 錬 (メルカリ執行役員)

## 2. 日米国際金融シンポジウム

国際文化会館はハーバード・ロースクール国際金融システム・プログラム (PIFS) との共催で、日米国際金融シンポジウムを実施している。本シンポジウムは、毎年日米交互で開催され、日米両国の政府高官、政治家、金融機関幹部、法律家、コンサルタント、研究者、メディア代表者など 100 名以上が参加し、2 日間にわたって国際金融システムの機能と安定化にかかわる問題について討議を行うものである。

第 22 回シンポジウムは、10 月 4～6 日に小田原で開催され、日米から 102 名が参加、以下の 3 つのテーマについて討議した。

- ▶ 成長促進に向けた対外融資の拡大：金融規制と金融安定性上の論点
- ▶ パッシブ運用対アクティブ運用：市場機能とコーポレートガバナンスへの影響
- ▶ 経済摩擦の国際金融への影響







## 3. 特別講演会

今日、国際社会はナショナリズムや排外主義の台頭、グローバル化への反動、テクノロジーの急激な進歩など、世界は既成の枠組みや従来の考え方が通用しない時代へと突入している。また、多くの国が「発展」や「成長」、「多様性」に力を注いできた一方で、さまざまな面で生じた分断や格差が際限なく広がりを見せている。そのような中、人々の対話と交流を通して共通の課題の解決に向けて取り組むため、2019年度より各分野で世界的に活躍する会員の方を特別講師に迎え、年4～5回講演会と懇親会を実施する。



2019年度は4回講演会を開催し、幅広い分野から構成される会員を中心として参加者同士が、講演会で問題提起された課題等について、さらに議論を深め、社会に貢献してゆく機会を創出を図った。


開催日	テーマ	講師
6月26日	魅力のある都市をつくる	安藤忠雄（建築家） 
9月6日	インターネット文明論	村井 純（慶應義塾大学 教授） 
11月7日	共通の「近代」－世界史と日本	キャロル・グラック（コロンビア大学 教授） 
12月12日	現代世界における開発協力と日本	北岡伸一（国際協力機構 理事長） 


## V. その他

### 1. アイハウス・レクチャー

本プログラムは、各分野の第一線で活躍中の専門家を講師に迎え、タイムリーな世界情勢や、諸外国との比較から見えてくる日本社会への示唆について政治、経済、外交、文化などの切り口からお話しいただくものである。いずれの講演も基本的には通訳をつけず、英語または日本語で行う。

2019年度は、以下の2回の講演会を開催した（英語2回）。

開催日	テーマ	講師など
4月12日	明治日本の下層社会—都市スラムから見えるもの	ジェームス・ハフマン ／ウィテンバーグ大学名誉教授 

6月19日	「アジアの世紀」は実現するか ～アジア経済の課題と展望	ジョン・ウェスト／アジアン・センチュリー・インスティテュート代表	
-------	-----------------------------	----------------------------------	---

## 2. 日文研・アイハウス連携フォーラム

京都を拠点に、日本の文化・歴史を国際的な連携・協力の下で研究するとともに、外国の日本研究者を支援している国際日本文化研究センター（日文研）と国際文化会館の共同プログラムとして2014年度に立ち上げたプログラムである。年4回程度、日文研の専任・客員研究員を講師とした講演会を会館で実施することにより、日本研究の最前線を紹介し、日本理解の促進を目指している。

2019年度は以下の3回の講演会を企画したが、第3回については新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、急遽中止した。

開催日	テーマ	講師など
6月5日	スペイン語圏における日本芸能：その受容とオンライン百科事典の役割	マウリシオ・マルティネス・ロドリゲス／日文研外国人研究員 コメンテーター：リチャード・エマート／武蔵野大学教授  
11月22日	日文研の三十年——その批判的・分析的な回顧および展望	磯前順一／日文研教授 コメンテーター：ジェームス・E・ケテラー／シカゴ大学教授、日文研外国人研究員 アンナ・ドゥーリナ／モスクワ国立総合大学附属アジア・アフリカ諸国大学講師、日文研外国人研究員   


2020年 2月26日 <b>※中止</b>	安全保障論議の30年— 「平成」と「冷戦後」を 考える	楠 綾子／日文研准教授 コメンテーター：竹中治堅／政策研究大 学院大学教授
------------------------------	-----------------------------------	---

### 3. 朝河貫一没後70周年記念シンポジウム

イェール大大学院などで学び、同大で日本人初の教授となった朝河貫一（1873～1948）は、日露戦争後の日本の強権的なアジア外交に警鐘を鳴らし、第二次大戦中には日米開戦を阻止するため大統領書簡を天皇に送ろうと奔走するなど、一貫して平和や協調外交を訴えた。朝河没後70周年を記念し、その生涯と功績を振り返り今後の日本のあるべき姿について議論するシンポジウムを2018年10月に開催した。2019年度はその報告書を作成し、無料の電子書籍としてウェブサイト上に公開するとともに、内外の大学や関係団体にハードコピーを配布した。

### 4. 特別朝食会

戦略的パートナーシップを結んでいるアジア・ソサエティ・ジャパン・センターとの共催事業として、以下の朝食会を行った。30年にわたる平成の時代が終わり、新天皇のもと令和という新たな時代がスタートした2019年に、近現代天皇制研究の世界的権威のケネス・ルオフ氏をスピーカーに迎え、戦後日本の天皇制とその変容や、現代社会における天皇の役割についてお話しいただいた。

開催日	テーマ	講師
10月18日	平成から令和へ—国民の天皇	ケネス・ルオフ (ポートランド 州立大学教授) 

### 5. 定期・不定期刊行物

2019年度は、これまで毎四半期に発行してきた広報誌『*I-House Quarterly*』に替わり、毎月配信しているメールマガジンの内容を拡充した。これにより、会館で開催するプログラムの告知や、講演レポート（テキスト・動画）の公開、図書室など各施設からの案内を、よりタイムリーに発信した。なお、紙媒体による広報誌発行は2019年3月号までとし、インタビュー記事など反響の大きかったコンテンツについてはより広く還元するため、ウェブサイト上に掲載した。

また、各年度の事業内容をまとめた年次報告書（『国際文化会館の歩み』、*Annual Report*）は、2019年度より「事業報告書」として和・英両言語でウェブサイト上に公開した。

## 6. アイハウス・プレス

2006年より、出版メディアを通して、会館のプログラム活動の成果を広く一般に発信するとともに、海外における日本理解の増進を目的として、日本人による名著を英訳・刊行して発信する活動を基本として実施している。

2019年度は、これまでに刊行された書籍の販売を継続するとともに、電子化の可能性について調査した。

## 7. Web、SNSなどによる情報発信

公開講演のうち、とくに反響の大きかったものはウェブサイト上で動画やテキストレポートを広く公開している。YouTube や Facebook、Twitter などソーシャル・メディアによるスピーディかつインタラクティブな情報配信にも継続して注力しており、2019年度には Instagram を使ったビジュアル発信を開始し、建築的側面から見た会館の魅力を訴求した。また、他の団体との協力も継続し、公開プログラムの情報を相互のメールマガジンおよび SNS などから告知した。

# VI. 図書室

## 1. 通常業務

2019年度の図書室サービスにおいては、前年度と比較して来館者が減少したが、貸出は増加した。

	2018年度	2019年度
蔵書		
図書	27,675 冊	27,643 冊
雑誌タイトル	394 種	395 種
受入図書	318 冊	226 冊
購入	117	109
寄贈	201	117
受入雑誌	2,483 冊	2,511 冊
除籍図書	3 冊	258 冊
開室日数	291 日	290 日
来館者	10,432 人	8,991 人

日本人	7,035	6,146
外国人	3,397	2,845
貸出	1,612 冊	1,848 冊
図書館間貸出	126 件	75 件
依頼	66	32
受付	60	43
レファレンス	989 件	933 件
来館	591	689
電話	62	70
手紙・ファックス	5	5
電子メール	331	169
パソコン利用者	421 人	466 人
図書会員	131 人	124 人
入会	30	17
退会	23	24

(2020年3月31日現在)

## 2. アーカイブ基盤整備事業


会館に保管されている写真、事務文書、各種の記録など、戦後の文化交流史を語る一次資料の活用を可能にし、総合的な基礎目録をインターネット上で公開することを目的として、3カ年計画（2017～2019年度）で本事業を実施した。2019年度は、事業に関する討議・助言を行うアーカイブ基盤整備委員会の指導のもと、概要目録の追加作成や目録への分類付与、資料（写真アルバム、カセットテープ、和英年報類）のデジタル化などを実施した。

## 3. その他

### (a) 書籍小展示（共催：日仏会館図書室、ドイツ日本研究所図書室）


本小展示は日仏会館図書室、ドイツ日本研究所図書室と共催で行ったもので、同じテーマについて会館では英語の資料、日仏会館ではフランス語の資料、ドイツ日本研究所図書室ではドイツ語の資料を展示した。

なお2020年3月に開催を予定していた「スポーツ 東京2020を前に」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、関係機関で協議を行い2020年4月以降に延期された。

開催日	タイトル	展示資料
10月1日 ～ 10月31日	生誕 120 年 川端康成	川端康成に関する英語資料（会館） 川端康成に関する仏語資料（日仏会館） 川端康成に関するドイツ語資料（ドイツ日本研究所） 

### (b) 追悼書籍小展示

長年にわたる会館の会員でもあった、ジャーナリストの松尾文夫氏の追悼小展示を以下の通り実施した。

開催日	タイトル	展示資料
11月8日 ～ 12月20日	松尾文夫氏追悼小展示	松尾文夫氏の著作、関係資料など 

## VII. 協力・後援事業

2019年度、国際文化会館は以下の事業への協力・後援を行った。

### 【協力】

都市のカルチュラル・ナラティブ プロジェクト

「建築プロムナード：建築特別公開日」 国際文化会館 特別見学会（10月3日）

主催：慶應義塾大学アート・センター

会場：国際文化会館

## IUC レクチャー・シリーズ

「宮崎駿の世界——闇の中の光」(11月15日)

主催：アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター (IUC)

会場：国際文化会館

## Innovative City Forum 2019

「都市とライフスタイルの未来を描く」(11月19日～20日)

主催：アカデミーヒルズ、一般財団法人森記念財団都市戦略研究所、森美術館

会場：六本木アカデミーヒルズ

## 【後援】

国際シンポジウム

「高齢化社会はチャンスになりうるか」(5月17日)

主催：公益財団法人サントリー文化財団

会場：国際文化会館

日本・エストニア デジタルガバメントフォーラム (6月12日)

主催：株式会社日本経済新聞社

会場：日経ホール

JEF-KRA グローバルリスク・シンポジウム (9月19日)

主催：一般財団法人国際経済交流財団

会場：国際文化会館

[悪]のル・コルビュジエとアジール・フロットタン (10月6日)

主催：日本建築設計学会

会場：大阪市立中央公会堂

緒方貞子さんを偲ぶ会 (2020年2月22日)

主催：国連NGO国内女性委員会

会場：国際文化会館

## VII. 国際文化会館の運営

2019年度は、研究個室（宿泊施設／全44室）において、14,369名の宿泊客を迎えた。このうち、外国人の利用が65.2%と、国内外の国際交流関係者、学者、芸術家、文化人、知識人の方々が集う施設としての特色を表している。

### 【会員向け宿泊キャンペーン（全会員対象）】

- ラストミニッツ宿泊プラン（通年）

別館に位置する会合施設（講堂／セミナー室）での利用者は26,633名、東館の会合施設（岩崎小彌太記念ホール／樺山松本ルーム）では、27,139名に利用された。

### 【宴会キャンペーン】

- サマー・パーティープラン（2019年7月1日～9月30日）
- ウィンター・パーティープラン（2019年12月1日～2020年2月29日）
- スプリング・パーティープラン 開催なし

料飲施設のティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』は、63,643名に利用された。また、主食堂のレストラン『SAKURA』は、16,901名の利用があった。

### 【ティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』キャンペーン・イベント】

- レトロフェア（2019年5月1日～6月30日）
- サマースペシャルメニュー（2019年7月1日～8月31日）
- オータムスペシャル（2019年9月1日～10月31日）
- ウィンタースペシャル（2019年11月1日～12月30日）
- 年越し蕎麦（2019年12月31日）
- お正月スペシャルランチ（2020年1月1日～3日）
- お正月スペシャルディナー（2020年1月1日～3日）
- ウィンタースペシャル（2020年1月6日～2月29日）
- お花見ちらし（2020年3月14日～4月6日）
- 夜桜ステーキセット（2020年3月14日～4月6日）



### 【レストラン『SAKURA』キャンペーン・イベント】

- クラシカルフレンチメニュー (2019年7月1日～8月31日)
- 秋を楽しむフレンチディナー (2019年10月1日～11月30日)
- クリスマススペシャル (2019年12月20日～12月25日)
- 和洋おせち料理 (2020年1月1日～3日)
- 新春フレンチコース (2020年1月1日～3日)
- お花見ランチコース (2020年3月14日～4月5日)
- 夜桜フレンチコース (2020年3月14日～4月5日)

以上の結果、別館を含む会合施設および料飲施設の総利用客数は、155,406名となった。また会員懇親の催しとして、以下を開催した。

- 観桜会 (2019年3月28日、29日 参加者214名)
- ガーデン・ビアパーティー (7月26日 参加者166名)
- ワインパーティー (11月21日 参加者155名)
- クリスマス晩餐会 (12月24日、25日 参加者148名)

いずれの日も会員の皆様およびゲストの方々が集い、交歓のひとときをお楽しみいただいた。

## サービス活動実績

### 研究個室

自 2019年 4月 1日

至 2020年 3月 31日

	2018年度	2019年度	増減	前年比
宿 泊 者 数	14,933	14,369	-564	96.2%
一日平均宿泊者数	40.9	39.3	-1.7	96.0%
外 国 人 比 率	65.7%	65.2%	-0.5%	99.2%
稼 働 率	76.0%	71.1%	-4.9%	93.6%
収 入 額	¥147,798,403	¥146,769,990	¥-1,028,413	99.3%
一日平均収入額	¥404,927	¥401,011	¥-3,916	99.0%

会議室・婚礼関連・料飲施設

自 2019年 4月 1日

至 2020年 3月 31日

		2018年度	2019年度	増減	前年比
セミナー室	収入額	¥74,427,047	¥64,267,529	¥-10,159,518	86.3%
	客数	30,758	26,633	-4,125	86.6%
	客単価	¥2,420	¥2,413	¥-7	99.7%
会議室	収入額	¥255,320,609	¥224,107,256	¥-31,213,353	87.8%
	客数	31,067	27,139	-3,928	87.4%
	客単価	¥8,218	¥8,258	¥39	100.5%
婚礼手数料	収入額	¥99,440,593	¥102,897,800	¥3,457,207	103.5%
	客数	7,294	6,721	-573	92.1%
	客単価	¥13,633	¥15,310	¥1,677	112.3%
レストラン	収入額	¥104,743,799	¥104,771,651	¥27,852	100.0%
	客数	16,918	16,901	-17	99.9%
	客単価	¥6,191	¥6,199	¥8	100.1%
ラウンジ	収入額	¥119,644,709	¥117,044,833	¥-2,599,876	97.8%
	客数	65,758	63,643	-2,115	96.8%
	客単価	¥1,819	¥1,839	¥20	101.1%
合計	収入額	¥653,576,757	¥613,089,069	¥-40,487,688	93.8%
	客数	151,795	141,037	-10,758	92.9%
	客単価	¥4,306	¥4,347	¥41	101.0%
一日平均	収入額	¥1,790,621	¥1,675,107	¥-115,515	93.5%
	客数	416	385	-31	92.7%

## 付 属 明 細 書

2019年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2020年5月

公益財団法人 国際文化会館